

技術の目的

樹木の健全な生育や緑地の雨水浸透機能の確保のため、透水・通気性の維持に配慮した植栽基盤の維持管理を行う。

導入する局面

創出

維持管理

利活用

適用空間

水域

陸域

技術の内容・事例

■技術の内容

1. 落葉や地被植物による土壌面の被覆^{出典1}

- 過度の除草や落葉除去を行わないことで土壌微生物の多様性維持を図りながら、土壌の雨水浸透機能を高めることが重要となる。



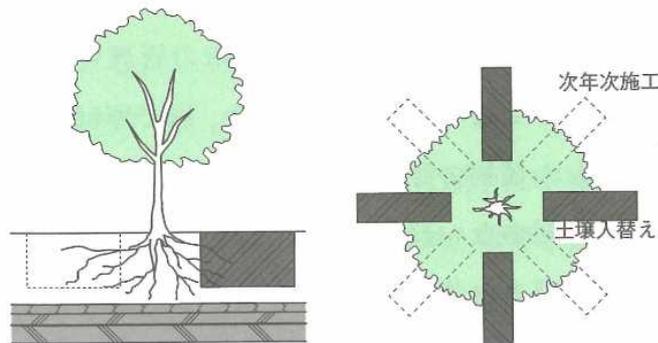
落葉除去・踏圧により裸地化した植栽地



落葉による土壌面の保護

2. 屋上緑化など人工地盤上の植栽基盤管理^{出典2}

- 屋上緑化の植栽基盤では全面的な土壌交換は難しい場合が多いため、3～5年スパンで順次部分的に土を入れ替える方法がとられる。

図 屋上緑化の土壌入れ替えの考え方^{出典2}

■出典・参考資料

- 1 (公財) 都市緑化機構特殊緑化共同研究会「都市のグリーンインフラ技術の提案」(令和元(2019)年10月)
<https://urbangreen.or.jp/tech/workshop/tokushuryokuka>
- 2 藤田茂著「日本一くわしい屋上・壁面緑化」(エクスマレッジムック、平成24(2012)年)

